

# 西光寺だより

第八十七号 平成二九年十一月一日発行

## ●今月の言葉●

在家報恩講の際、正信偈本文についての説明は致しましたが、その後の和讃について聞かれることがありましたので、ここで説明させていただきたいと思えます。

この六首は、五〇〇を超える親鸞聖人の和讃で、「三帖和讃」の『浄土和讃』・『高僧和讃』『正像末和讃』という三つの中の『浄土和讃』の中にある六首で、和語をもって讃嘆する七五調の歌であります。

**弥陀成仏のこのかたはいまに十劫をへたまへり法身の光輪きはもなく世の盲冥をてらすなり**

阿弥陀仏が一切の衆生を救いたいという願いを發して仏になられたのは、十劫という気の遠くなるような昔にさかのぼります。以来、その願いは実際に力となり、無限のいのちをもって今日に至るまで止むことなくはたらき続けています。しかも、そのはたらきは光がどのような暗闇の世界であろうともあまねく照らし尽くしていくように、煩惱の闇に惑わされて真実の智慧をもたない私たちを一人残さず真実に目覚めさせてくださいます。

**智慧の光明はかりなし有量の諸相ごとごとく光暎かふるぬものはなし真実明に帰命せよ**

真実に目覚めた阿弥陀仏の智慧は、光となってあらゆるものを照らし、そのはたらきは凡夫の心で到底量り知ることができないために無量光と呼ばれています。そして、ちやうど、光があかつきの闇を破るように、迷いの衆生を一人残さず照らして、限りある智慧しかもたない存在であることを知らせます。ですから、ありのままの真実の相に気づかせてくださる阿弥陀仏にすべてをまかせずしてどうしておられましょうか。

**解脱の光輪きはもなく光触かふるものはみな有無をはなるとのべたまふ平等覚に帰命せよ**

煩惱の束縛から開放されて自由自在の功德を具えた阿弥陀仏の光明は、どこからどこまで照らすという辺際がないために無辺光と呼ばれています。そして、その光に触れば誰もが執着に惑わされた誤ったものの見方から開放され、因果の道理に適った正しいものの見方ができるようになるといわれます。ですから、執着を離れて平等無差別のさとりを得られているとともに、一切衆生を分け隔てなく平等に救うはたらきをもたれた阿弥陀仏にすべてをまかせずしてどうしておられましょうか。

**光雲無碍如虚空一切の有碍にさはりなし光沢かふるぬものぞなき難思議を帰命せよ**

阿弥陀仏の光明は、大空を雲がかけめぐるように、いかなるものにも障碍されることなく迷いの衆生を救う広大なはたらきがあるために無碍光と呼ばれています。また、雲は雨を降らしてあらゆる生きものをうるおすように、光明のはたらきのうるおいを受けない人は誰一人としていません。ですから、凡夫の心で思うことが難しいほど勝れたはたらきを具えた阿弥陀仏をたよりとせずしてどうしておられましょうか。

**清浄光明ならびなし遇斯光のゆるなれば一切の業繫ものぞこりぬ畢竟依を帰命せよ**

煩惱の穢れのない阿弥陀仏の光明は、他に比べるべきものがないほど清浄であるために無対光と呼ばれています。この光に遇って如来の本願のはたらきを信ずる身になれば、いかに罪業が重く苦悩のどん底にあっても、罪業や苦悩の束縛から離れることができます。したがって、あらゆる衆生の究極のよきどころともなる阿弥陀仏をたよりとせずしてどうしておられましょうか。

仏光照曜最第一光炎王仏となづけたり三塗の黒闇ひらくなり大応供を帰命せよ

阿弥陀仏の光明の照らし輝くさまは、十方世界にあまねくゆきわたり、諸仏の光明に勝れて、光明中の極尊であるため炎王光とも呼ばれています。

それは諸仏の光明の照らさない三悪道（地獄・餓鬼・畜生の三塗のこと）までも至り届いて、よくその闇を破り、極重の悪人を救います。まさに一切衆生の供養を受けるにふさわしい資格を具えておられる阿弥陀仏をたよりとせずしてどうしておられましょうか。

《白川 晴頭師著「浄土和讃を読む」より》

見ていただくとわかりますようにこの歌は、わかりやすく称えやすいようになっています。そして親鸞聖人が仏法に出遇われた喜びの歌（詩）であると同時に、現代の私たちに向けて、「どうか仏法に出遇ってください・本願に出遇ってください」と願い遺してくださいましたメッセージなのであります。

### ◆先月の報告◆

十月二十五日（水）西光寺報恩講の前に仏教婦人会の皆さんと十五年ぶりの座布団カバーのクリーニングをいたしました。和気あいあいと先輩の仏婦の方の思い出話しをしながら、白くなったカバーのとれたボタン、ホックを老眼鏡をかけながら修理し、気持ち良く座っていただけになりました。

仏教婦人会役員、年番の方々、ありがとうございました。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

### ◆十一月・十二月の行事◆

・十一月 二十三日（木・祝）

報恩講法要

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◎御法話

本願寺派布教使

宮部

誓雅

師

・十二月 十九日（火）～二十日（水）

茨木東組念仏奉仕団

京都西本願寺

・十二月 三十一日（日）

除夜の鐘

西光寺鐘楼